

第2回 ワークショップ検討タスク議事録

1. 日時：平成22年9月21日(火) 13:30～18:00
2. 場所：日本電気協会 4階 C, D会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）
出席委員：渡邊主査（東京電力），神田（三菱重工業），小嶋（日立GE ニュークリア・エナジー），
錦野（日立GE ニュークリア・エナジー），山本哲（東芝），倉田（中部電力），島津（北海道電力），東（九州電力），山本雅（東京電力），齋藤（西日本技術開発）（計10名）
オブザーバ：飯塚（東京大学），棟近（早稲田大学），田中（北陸電力），佐藤（四国電力），原・佐藤（東芝）（計6名）
事務局：糸田川，国則（計2名）
4. 配付資料
資料2-1 第1回ワークショップ検討タスク議事録(案)
資料2-2 平成22年度ワークショップ開催案内(案)
資料2-2-1 ワークショップ実績一覧
資料2-3 平成22年度ワークショップリハーサル資料
資料2-4 ワークショップ検討タスク委員名簿
資料2-5 平成21年度ワークショップアンケート
資料2-6 平成21年度ワークショップ ご質問などについて
参考-1 日本品質管理学会後援依頼文書/回答文書
参考-2 タイム24会場レイアウト図
5. 議事
 - (1) 定足数確認（オブザーバ確認）
事務局より，タスク委員全員（10名）出席であることの説明があった。また，11月1日のワークショップの講師など7名がオブザーバ参加として，出席いただいていることの報告があった。
 - (2) 配布資料確認 / 前回議事録確認
事務局より，配布資料の確認及び前回議事録の確認が行われた。
 - (3) ワークショップリハーサルの聴講
出席者の自己紹介ののち，各発表者による発表と質疑応答が行われた。
(主な意見)
 - ① 基調講演「質マネジメントシステムと品質保証」
 - ・ QMSを説明するときに，いい電気を作るしくみ（全体的なQMS）を持っており，運用しているあるひとつの側面を見たのがJEAC4111であるということを説明したい。
→ある側面にスポットライトを当てて原子力安全を確認するのが，JEAC4111のしくみであると説明するのは良いが，JEAC4111のQMSは一般的な意味での広義のQMSではなく，原子力安全のための狭義のQMSであることを丁寧に説明する必要がある。
 - ・ 「原子力発電所の質向上」は聴衆には理解しにくいかもしれない。
→「品質」でなく，「質」を使っている理由を説明いただくとよい。
 - ・ QMSについては，「絵」で表わすと理解しやすいと思われる。
→検討する。
 - ・ 38頁の「トップ事象」は「不具合事象」又は「不適合事象」とする。
 - ・ 35頁の「原子力発電におけるQMSモデル」の図は，9月28日の原子力規格委員会に上程するJEA G4121附属書2の内容と整合をとる。タイトルも「原子力安全のためのQMSモデル」とする。
 - ・ 3頁の「地域社会」→「社会」とする。
 - ・ 7頁の「SDCAサイクル」はわかりにくい。
→検討する。

② テーマ1 [内部監査の実際]

- ・システムを評価していることを説明してほしい。また、どのような監査の視点があって、具体的にどのような質問をして、こういうものを見つけて、原因を探して、フォローするなど、監査が有機的に、機能的に効果を発揮している事例を入れるとよい。
- ・J E A G 4 1 0 1－2 0 0 0年版に基づくセルフアセスメントであることの全体像を絵で説明した方がわかりやすい。
- ・工夫のしどころや悩みどころ、また監査を受ける側も含めて、実態に即した内容を説明してはどうか。
- ・26頁に気付き事項を含めて、苦労しているところなどを説明するとよい。気付き事項が続くと、要望事項とする事例など。また、セルフアセスメントをする者の力量確保についての課題なども含めるとよい。

③ テーマ2 [伊方発電所における品質保証計画と保守管理活動]

- ・このシステムをどのように作ってきたのかなど、基本的な思想を強調してほしい。
 - ・グループの一体化とはどういうことか。
- 保全に関する原資を有効に使うため、電力+関係会社（アウトソース）でのグループで可能なことは何かを考えたものである。
- ・システムを見えるようにした、そのポイントを伝えてほしい。
 - ・保守管理活動に対して、QAグループがどういうふうに関わっているかというところもアピールするとよいのではないか。
- QA部門が関わっているのは文書の作成、レビューや不適合、是正・予防処置、業務計画、セルフアセスメントなどの共通的なものを担当している。
- ・保全適正化の活動状況の説明が多いが、できれば、その辺を圧縮して、品質保証活動という意味で、普及活動なり、品質保証部門の役割なり、体制の見直しの中でどういう役割を演じているのか、あるいは、トップの意識が品質保証の導入にともなって変わったとか、そういうところのつながりなどを含められないか。あとのパネルディスカッションにつなげるためにも、含めてほしい。
- 新しいしくみの中に、品質保証を良く知っている人間が入って進めてきたという実態はあるので、その主旨で検討する。

④ テーマ3 [RCAの実際]

- ・そもそも何故RCAを実施しようと思ったか、その発端のところがキーポイントであるので、そこを説明してほしい。また、RCAの結果、当初のもくろみどおりであったのかどうかなどの考察も含めるとよい。J A N T Iでの説明時はそのような点が含まれていて、RCAの良好事例と思われたので、そこを強調してほしい。さらに、SAFERを実施しただけで根本原因が抽出されるのは難しく、SAFERの結果に対して、業務に通じた人間が考察して初めて、根本原因がわかると思っている。その考察の部分がどうだったのかというところも、述べてほしい。
- 検討する。

(4) ワークショップ推進について

① パネラーの決定

渡邊主査より、資料2-2-1に記載しているパネラーのメンバーに加え、倉田委員(中部電力)、神田委員(三菱重工業)、小嶋委員(日立GEニュークリア・エナジー)の3氏を追加する提案があり、了解された。

② パネルディスカッションの進め方

パネルディスカッションの進め方については、当日の発表テーマに関する内容をベースとすることを確認した。

(主な意見)

- ・この3つの発表テーマに関して、どのような質問がありうるか、本日の出席メンバーが事前に想定質問を考えて、総合司会される棟近先生に電子メールで送付するとともに、本日出席者全員に

もＣＣで送付することとする。

なお, 送付期限は, 当日の発表資料原稿の締め切り日である, 平成２２年１０月２１日(木)とする。

6. その他

- ・コースⅣのアンケートの内容については, 前年度の資料２－５をベースに, 錦野委員にて見直していただくこととした。
- ・当日の会場設営は, 事務局にて実施する。また, 参考-２の会場レイアウト図は, パネラー数, 演台等本日の決定内容を反映し, 事務局より本日の出席者全員に後日送付する。
- ・当日の講師, パネラーの集合時間については, 事務局より, 後日ご連絡する。

以 上